

「名詞十の十名詞」：日本語テキストの分析

深見兼孝

はじめに

初級において、格助詞は動詞とともに一定の文型の中で（例えば、「存在の場所」に「存在物」が「存在の動詞（あります）」）導入されるのが一般的なように思える。これは、格助詞のついた名詞、すなわち格成分が動詞の意味のある側面と直接的に関わるという一般的な考えを反映したものと言えよう。しかるに、「の」で連結された名詞はその全体が格成分となるのであって、「の」自体は動詞とは直接的な関わりを持たない。

それでは、初級日本語テキストでは「名詞十の十名詞」はどのように扱われているのだろうか。また、そこから教育上どんな示唆を得られるだろうか。以下は、4種類の初級日本語テキストに基づいたその報告である。なお、「の」で連結されている名詞のうち先行するものをX、後行するものをYとする。また、テキストには3つ以上の名詞が「の」で連結されている例もあったが、例示にとどめておくことにし、分析は後日を期したい。

1. 文化初級日本語Ⅰ（全18課） 凡人社1998

各課の構成：基本的に「会話」「例文・説明」「練習」が一つのセットになっており、このセットが各課ごとにいくつかある。

分析の観点：

- ①「例文・説明」で下線が引かれていたり、例文として挙げられているもの→（1）
- ②それ以外でも「例文・説明」や「会話」で他の事項と並行的に取り上げられると思われるもの→（2）

（1）文法事項として明示されている……1課、2課

・1課

（a）XはYの時、Yは動作名詞

今日のテスト→今日行われるテスト、今日するテスト、今日あるテスト

（例）今日のテストは何時からですか。

今日のテストは9時から10時までです。

（b）XはYの時、Yから人の動きを容易に認めることができる

4時間目の授業→4時間目に行われる授業、4時間目にする授業、4時間目にある授業

(例) 4時間目の授業は1時からです。

(c) XはYの場所、YはXに存在する

(例) 日本の郵便局は9時から5時までです。

学校の食堂は何時から何時までですか。

・ 2 課

(a) YはXの所有物

(例) 誰の教科書ですか。等

*練習としては取り上げられていない。

(2) 並行的な文法事項として取り上げられている……5課、9課、15課

・ 5 課

YはXを基準にした相対的な位置または空間

(例) 冷蔵庫の中にビールと刺身があります。

デパートの中で 等

*理解の練習、「～はXのYにあります」の生成練習あり。

・ 9 課

「Xの～方」

・ 15課

(a) 「～の方」

比較構文

(b) 「～のなかで」

最上級構文

*パタンの生成練習あり。

(c) XはYの場所、Yは季節

(例) 日本の夏は暑いですね。

*Xが地名でパタンを生成する練習あり。Yが「部屋 (アパート)」でパタン (XはYの存在する場所) を生成する練習もある。

(3) 意味的パタンとしては (暗黙のうちに) 既出だが、「天気予報」の表現として取り上げられている……17課

(例) 明日の全国の空模様です。

日中の最高気温は千葉で28度、神奈川、埼玉では27度……等

*パタンの生成練習あり。

(4) 以上以外の課では「XのY」が文法事項としても練習としても取り上げられることはないが、さまざまな意味的關係で結びつけた「XのY」が出てくる。特に、「ハワイの休日（ハワイに行ってそこで過ごす休日）」(8課)のように、Xに(観光で)行くことで初めてXと人の關係が生じ、かつその人の動きの対象としてのYが時間のような抽象概念であるために、XとYの意味的關係も間接的で把握しにくいと思われるようなものも出てくる(同じ課に「ハワイのピナップル」がある。これと比較されたい。想定される人はハワイの人でXとの關係は直接的である。また、ピナップルはその人たちの動きの結果—生産物—である)。ただし、「ハワイの休日」はチラシの文句の一部として、そのチラシが描かれており、配慮が見える。

(5) 3つ以上の名詞が連結された例……5課、11課、13課、17課

(例) お手洗いの中の洗面所で(5課)(下線は筆者)

これは私の家族の写真です。(11課)

私はタイの高校の家庭科を卒業してから……(以下略)(11課)

私も隣の人のノートを借りて勉強します。(13課)

明日の全国の空模様です。(17課)

明日の関東地方のお天気です。(17課)

2. Japanese Made Possible Volume I (全14課) 凡人社1991

各課の構成: 「本文」「文型(日本語とその英訳)」「英語による文法説明」「練習問題」からなる。「文法説明」は「文型」に含まれる事項の説明である。

分析の観点:

① 「文法説明」に記載されている→(1)

② 「練習問題」のみに含まれる→(2)

(1) 文法説明として取り上げられている……2課、3課、4課、6課、7課、9課

・2課

「ふつうofの意味。人の後につくときはしばしば所有を示す。」しかし、この課にofに当たる例なし。

(例) これはわたしのえんぴつです。等

* 「わたくし→だれ・あなた」の言い替え練習あり。

・3課

「‘うえ’、‘なか’、‘した’、‘そば’は文法的には名詞。名詞と‘の’の後に続き、‘に’の前に来るときは位置を示す副詞句を作る。」

(例) テーブルのうえにかごがあります。 等

* 「テーブルの上 (下) →どこ」の言い替え練習、パタンの繰り返しおよび理解練習あり。

・ 4 課

「色の修飾語は……ある時には名詞。名詞が別の名詞を修飾するときは‘の’が間に入る。」

(例) みどりのかみはすこししかありません。等

* 「ほかの」が英訳で。

* パタンの生成・理解練習あり。3課のパタンの理解、繰り返し練習あり。

・ 6 課

(a) 「うえ／したの (むすめ)」が英訳で。

(例) うえのふたりはむすめでいちばんしたはむすこです。等

(b) 「～のまえ／あとに」が英訳で。

* 「うえ／したの～」の繰り返し練習あり。

・ 7 課

「‘～する’を持つ文は二つの方法で組み立てることができる：①日本語を勉強する
②日本語の勉強をする」

(例) 英語の勉強をします。等

・ 9 課

「ある種類の」が英訳で。

(2) 文法説明ではなく練習に取り上げられている……7課、10課、13課

・ 7 課

(a) 「とうきょう () かいしゃいん」() に「の」を入れさず練習あり。このパターンは「XがYの住む場所」。完全に同じ意味関係は未出だが、5課に類似の「せかいの (いろいろの) くに (XがYの存在する場所)」、「(いろいろの) くにの人 (XはYの出身地だが、文脈によってはXはYの住む場所の解釈も可)」が出ている。

(b) 「どんなどうぶつの (け) →ひつじの (け)」、「なんで→ぶた／うまのかわで」の言い替え練習あり。この意味関係は「YはXの所有物ないし身体部分」。

・ 10課

(a) 「いろいろのY」のY生成練習。パターン「いろいろの～」は5課に既出。

(b) 「やまださんのおくさん」の理解練習。意味関係「YはXの親族」は6課に既出。

(c) 「980円のY」のYに「おつり」を入れる練習。「XはYの数量」。

・13課

「電話のベル」、「きのうのあさ」の繰り返し練習。前者は「YはXの動きの結果(対象)」とも「XはYの源」とも。後者は「YはXの時間的構成部分」で広い意味で「YはXの一部」。

(3) 以上以外の課では「XのY」が文法説明としても練習としても取り上げられることはないが、さまざまな意味の関係で結びつけた「XのY」が出てくる。これらが取り上げられなかったのは、XYの意味関係が広く「全体・部分」ないしは「相対的位置(3課、6課)」に含まれるか、7課の延長として動きが容易に認められるのでX・Yの意味関係の把握が容易だと考えられたためではないか。また、取り上げられた「XのY」には英語との対照の結果が考慮されていると思われる。

(4) 3つ以上の名詞が連結された例……4課、5課、8課、11課、14課

(例) 他の色の紙は一枚ずつあります。(4課)(下線は筆者)

世界のいろいろの国の人が日本語学校に来ます。(5課)

弟は学校の野球の選手です。(8課)

授業の終わりのベルが鳴ります。(11課)

その次の年の11月に男の子が生まれました。(14課)

3. みんなの日本語 初級I (全25課) スリーエーネットワーク1998

各課の構成：「文型」「例文」「会話」「練習A～C」「問題」からなる。「練習A」は文型・文法をチャートにしたもの。

分析の観点：

①「練習A」で主要事項と見なされていると思われるもの→(1)

②上以外で「練習A」に現れているもの、および「文型」「例文」「会話」のどれかに現れているもの→(2)

(1) 文法事項として明示されている……1課～3課、10～12課、18課

・1課

XはYの所属。

(例) ミラーさんはIMCの社員です。等

*パタン生成、繰り返し練習、「の」の生成練習等あり。

・2課

(a) XはYの内容。

(例) これはコンピューターの本です。等

*パタン生成、繰り返し、「何の」の生成等の練習あり。

(b) YはXの所有物。

(例) あれは私の机です。等

*パタン生成練習あり。

・ 3 課

XはYの産地。

(例) これは日本の自動車です。等

*パタン生成練習あり。

・ 10課

YはXを基準にした相対的な位置または空間

(例) スーパーの前に喫茶店があります。

ミラーさんはエレベータの前にいます。

本屋は花屋とスーパーの間にあります。

*パタン生成練習あり。

・ 11課

XはYの数量。

(例) 90円の切手を一枚ください。

*繰り返し練習あり。

・ 12課

「～のほう」：比較構文

・ 18課

(a) YはXを基準にした相対的な時間的位置。

(例) 食事のまえに手を洗います。等

*パタン生成練習あり、なお19課に同じパタンで「の」挿入練習あり。

(b) XはYの対象、Yは動作名詞。

*ミラーさんは車の運転ができます。

(2) 文法事項としては明示されていないが、文型、例文、会話に含まれる……2 課、4
～5 課、7～9 課、12～15課、18課

・ 2 課

XはYの住む(使う)場所。Xは番号からその番号の部屋。

(例) 408のサントスです。

*練習問題に例としてある。

・ 4 課

(a) YはXの電話番号。近いものとして「YはXの所有物」(2課)。

(例) IMCの電話番号は何番ですか。

*パタン合成の練習、繰り返しの練習あり。

(b) 電話番号の読み方。Xは大きな地域の番号、Yはそこに含まれる地域の番号。

広い意味でYはXの一部。

(例) 341の2597です。

*読み方の練習あり。

(c) XはYの所属。Xは電話番号からその担当部署。

(例) 104の石田です。

・ 5 課

XはYの時間的順序、Yは定期的に発着するので順序を想定できる。

(例) 次の「普通」ですよ。

*Yをいろいろ入れ替えた練習あり。

・ 7 課

(a) XはYの用途・目的。Xから「乗る」という動きが想定、Yはそのためのもの。

(例) もう新幹線の切符を買いましたか。

*繰り返し練習あり。

(b) YはXの途中で入手したもの。Xから場所が想定できる。

(例) ヨーロッパ旅行のおみやげです。

・ 8 課

(a) XはYの存在の場所、もしくはYはXの構成部分。

(例) 琵琶湖の水はきれいですか。

*繰り返し練習あり。

(b) XはYの場所。Yは動作名詞。

(例) マリアさんはもう日本の生活に慣れましたか。

・ 9 課

X・Yは動作主・動作の対象。

・ 12課

「～の中で」：最上級構文。

・ 13課

(a) XはYの時間。Yから動きを容易に認めることができる。

(例) 今日の会議は大変でしたね。

(b) XはYの内容(←対象)。「XはY(動作名詞)の対象」18課に文法事項として明

示されている。

(例) 経済の勉強に来ました。

・ 14課

「Xの～方」

*19課に「の」を入れる練習あり。

・ 15課

「日本の美術」：Xから人を想定できる。Yはその人たちの動きの結果。

・ 18課

XはYの被写体

(例) 動物の写真です。

(3) 以上の他、練習にだけしか現れないパターンがあるが、整理し切れていない。一例だけ示せば：

・ 4課

YはXの時間的構成部分。

(例) 昨日の晩

(4) 3つ以上の名詞が連結された例……7課、9課、12課、20課

(例) 母の誕生日のプレゼントを買います。(7課) (下線は筆者)

今年は日本の花の本をあげます。(7課)

来週の金曜日の晩です。(9課)

三つの店の中で私は「ABCストア」がいちばん好きです。(12課)

着物の女の人がたくさんいた。(20課)

田中君と高橋君は神社の前の箱にお金を入れて……(略)(20課)

4. 日本語第1歩 1 (全19課) 凡人社1993

各課の構成：「本文」と「練習」からなる。

分析の観点：

①本文と練習の両方に現れているもの→(1)

②本文だけに現れているもの→(2)

(1) 本文と練習の両方で取り上げられている……2～3課、6課、9～12課、14～17課

・ 2課

YはXにまつわる特定の日。所有の一種か。

(例) 私の誕生日は1月6日です。

* 繰り返し練習あり。

・ 3 課

(a) YはXの所有物。

(例) これは私のボールペンです。等

* 「だれの→Xの」の言い替え練習あり。

(b) YはXの内容

(例) それは日本語の辞書です。等

* 「何の→Xの」の言い替え練習あり。

(c) YはXの産地または使用されている場所

(例) これはどこのたばこですか。等

* 「どこの→Xの」の言い替え練習あり。

・ 6 課

YはXを基準にした相対的な位置または空間。

(例) 机の上に便せんがあります。等

* Yの生成、パターン全体の生成練習あり。

・ 9 課

XはYの存在する場所。

(例) 銀座の喫茶店で飲みました。

* Xの生成練習あり。

・ 10 課

YはXの時間的構成部分。

(例) あなたは先週の日曜日にどこへ行きましたか。等

* 繰り返し練習あり。このパターンは既に2課の本文にもある。

・ 11 課

XはYの時間的順序

(例) あなたは今度の日曜日にどこへ行きますか。等

* 繰り返し練習あり。

・ 12 課

(b) XはYの外観的側面

(例) 私の先生は……茶色の靴を履いています。

* 繰り返し練習あり。

・ 14 課

年齢の上下関係。

(例) 上の妹は17歳で、下の妹は15歳です。

* Xの生成練習あり。

・15課

(a) XはYの種類。13課本文に既出。

(例) バラの花は色がきれいです。

* 繰り返し練習あり。

(b) 「～の方」：比較構文。

* Yの生成練習あり。

・16課

YはXの対象。Yは動作名詞。

(例) あなたは自動車の運転ができますか。等

* 繰り返し練習あり。

・17課

「～のなか」：最上級構文

* Yの生成練習あり。

(2) 本文だけで取り上げられている……8課、12課、14課

・8課

YはXの内容。XYは「教える・習う」などの動作によって関連づけられる。9課にも類似の「日本語の勉強(19課では繰り返し練習も)」が現れる。

(例) 日本語の授業は何時に始まりますか。

・12課

(a) YはXの親族ないしYを基準に特定の関係にある人。

(例) あなたのお父さんは何をしていますか。

あなたの先生はめがねをかけていますか。等

(b) YはXの構成部分。同じ課の「たばこの火」もこれに入るか?

(例) 小鳥が木の枝で鳴いています。

(c) 「～の時」

・14課

(a) XはYの性別。

(例) 男の学生は何人いますか。等

(b) 「ホテルの部屋代」。XYは「泊まる」および「払う」などの動きで関連づけられる。

(3) 上以外でも、練習にだけしか現れないものがある(カッコはそのパタンの初出の課)。

- ・「あなたの教室・いえ」（5課）：Xの「勉強する」「住む」などの動きによってXYは関係づけられる。
 - ・「日本語の本」（9課）：「書く」という動作によってXYは結びつけられる。
 - ・「英語の先生」（12課）：XはYの担当。「教える」によってXYは結びつけられる。
 - ・「日本語学校の先生」（12課）：XはYの所属（勤務先）。
 - ・「あのレストランの料理」（15課）：「出す」「食べる」などの動作でXYが結びつけられる。
 - ・「子どもの写真」：XはYの被写体。「写す」動作でXYは結びつけられる。
- *以上、「あなたの教室・いえ」パターンが9課でXの生成練習があるほか、繰り返し練習。

(4) 3つ以上の名詞が連結されている例

- (例) 父は中学校の英語の先生です。(12課) (下線は筆者)
 わたしのかばんの中 (14課)
 ……姉はバラの花より桜の花の方が好きです。(17課)

まとめ

以上をまとめると次のようになろう：

- (1) 各テキストはいろいろなパターンを乗せているが、必ずしもそれに対する説明や練習があるわけではない。
- (2) 練習だけにしか現れないパターンを除外してみると、テキストに共通的に現れるパターンは極めて少ない。「YはXの所有物」、「YはXを基準にした相対的位置（空間）」のみが4つのテキストすべてに共通に現れるパターンで、前者が初期（どのテキストも2課）に現れる。
 3つのテキストに共通のパターンを見ても、上の2つに「XはYの存在する場所」、「XはY（動作名詞）の対象」、比較構文の「Xの方」、最上級構文の「Xの中（で）」が加わるだけである。
- (3) 名詞が三つ以上連結された例がどのテキストにも見え、一つのテキストを除いては比較的早くから現れる。

4種類のテキストを見る限り、「名詞+の+名詞」について、初級でどのような扱いをすべきか、教科書編纂者側の考えに共通した部分があまりないことが伺える。これをさらに押し広めれば、「名詞+の+名詞」について教授する側もまたあまり考えてこなかったと言えるかもしれない。他の格助詞が、テキストによって多少の出は入りはあるにしろ、

その基本的な用法がきちんと盛り込まれていると思われるのに対し、「の」だけこのような状態であっていい理由はないであろう。

一方、「名詞+の+名詞」には、二つの名詞の間の意味的な関係を学習者側に教授しなければならない場合、比較の「～の方が」のように、一定の型として教授すればいい場合、特に触れなくてもいい場合等、いくつかの場合がありそうに思える。いずれにせよ、「の」に関する言語学的、習得論的研究と並行して、コース・デザインの中でも、教室活動の中でも「の」をどのように取り込んでいくかという実践的な研究が求められるだろう。